【評価調書様式１】

投資事業評価調書（新規）

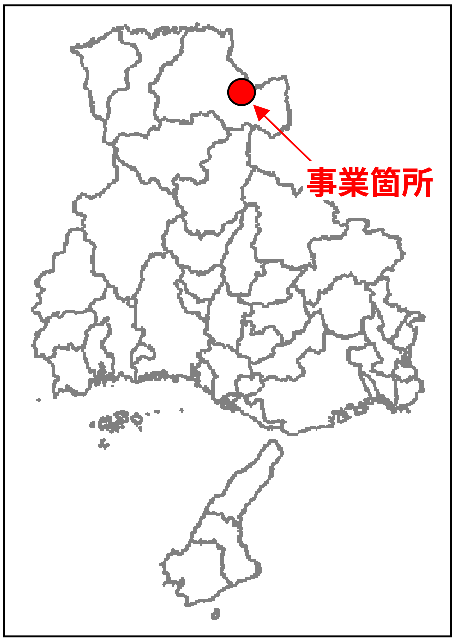
部課室名	砂防課	記入責任者職氏名 （担当者氏名）	砂防課長　尾崎　幸忠 （　鵜崎　尚夫　）	内線	4459 (4467)

事業種目	急傾斜地崩壊対策事業	事　業　名	事 業 区 間	総事業費	１．６億円
		急傾斜地崩壊対策 おくおの 奥小野地区	豊岡市出石町 おくおの 奥小野	内用地補償費	－　　億円

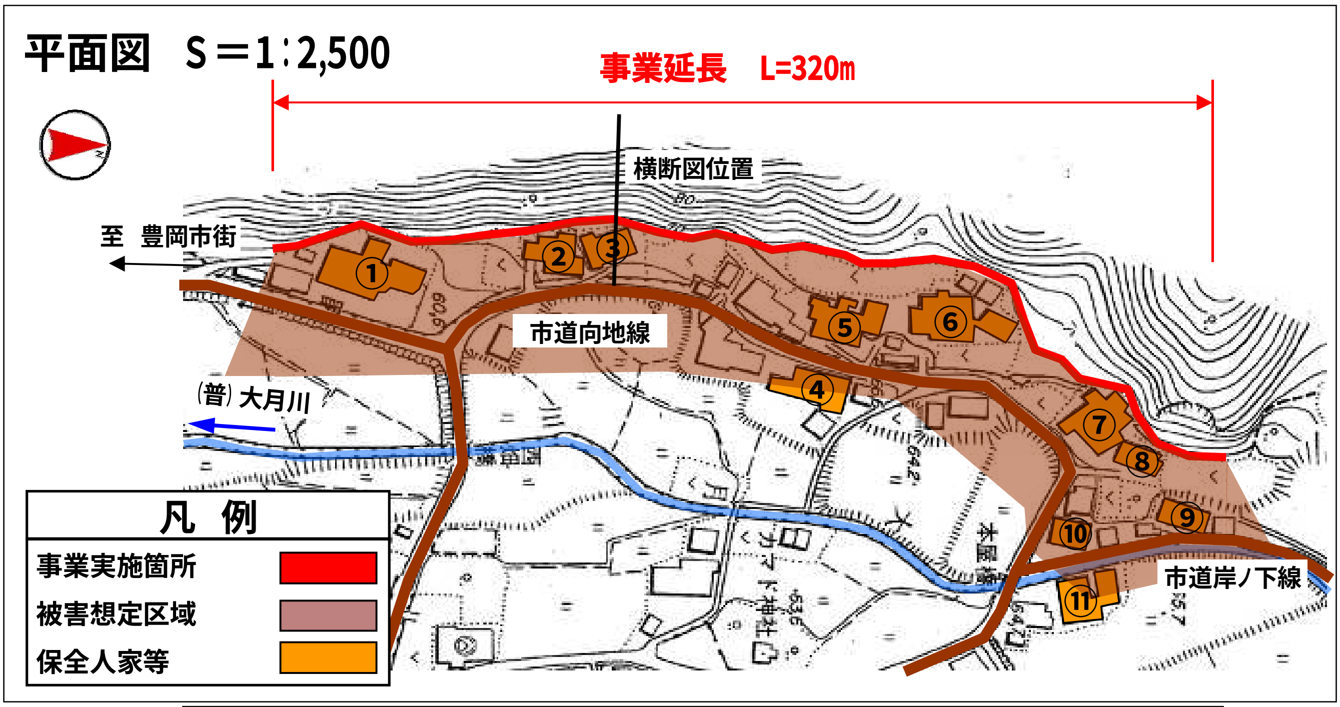
所　　在　　地	着手予定 年　　度	完成予定 年　　度
豊岡市出石町奥小野	Ｈ２２	Ｈ２４

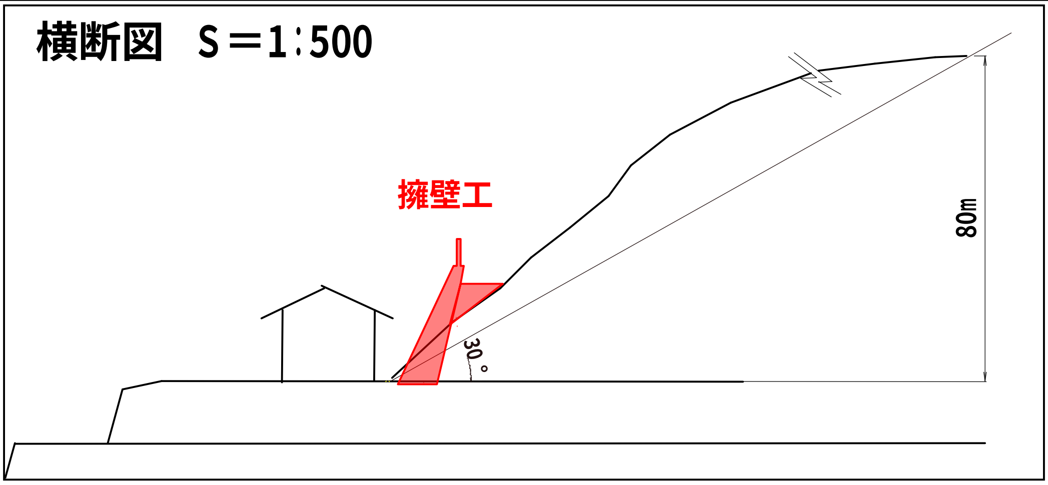
事　業　目　的	事　業　内　容
○急傾斜地崩壊による災害の防止 　当地区は斜面崩壊の危険性が高く、急傾斜地崩壊危険箇所となっている。斜面下部には人家や市道等があるため、防災工事を行い、地域の安全・安心な暮らしを支える。	急傾斜地崩壊対策事業 　擁壁工 　Ｌ＝３２０ｍ 　負担割合　国　：４５．０％ 　　　　　　県　：４５．０％ 　　　　　　地元：１０．０％

評価視点	評価結果の説明
(1)必要性 〔地区の状況〕	・出石神社の北東約４㎞に位置する急傾斜地崩壊危険箇所。 ・人家裏には高さ80mの急斜面が近接している。 ・斜面は、複数の表層崩壊跡があり、斜面下部には落石も多く、崩壊の危険性が非常に高い。
〔保全対象等の状況〕	・延長320m、幅50mの被害想定区域で、崩壊した場合の影響は大きい。 ・人家11戸、市道(約400m)、大月川
(2)有効性・効率性 〔効果〕	・上記保全対象を守り、地域の安全・安心な暮らしを守る大きな効果がある。 ・平成19年度に土砂災害防止法に基づく基礎調査を実施し、平成21年度には土砂災害警戒区域を指定する予定であり、ハード・ソフト両面からの土砂災害対策の推進が可能。
〔事業執行環境〕	・事業の同意を得ているため借地契約に問題はない。 ・工事予定箇所付近には市道があるため、工事用進入路に問題が無いことから円滑な事業執行が可能。
(3)環境適合性	・擁壁工の施工にあたっては、法面掘削を法裾の最小限に抑え、既存斜面の緑を残す。
(4)優先性	・近年、小規模崩壊が起きており、早期着手に対する地元要望も強い。 　以上より、H22年度に事業着手し早急な対策が必要である。


事業箇所

位置図
1:50,000
奥小野地区
(一)町分久美浜線
(一)口小野矢根線
至 豊岡市街
いずたんトンネル
至 出石市街
出石神社


平面図 S＝1：2,500
事業延長 L=320m
横断図位置
至 豊岡市街
市道向地線
(普) 大月川
市道岸ノ下線
①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
凡 例
事業実施箇所
被害想定区域
保全人家等


横断図 S＝1：500
擁壁工
80m
30°

箇 所 名	奥小野地区